

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2020.11.15 No.56

発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentoshou.com/

第56号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 嶋田 伸夫
清水 儀孝 生野 正 瀬下 明 土子 民夫
綱取 謙一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

古物営業法に基づく盗難品の取り扱いについて

われわれ刀剣商・古物市場主は常に、盗難品が持ち込まれるというリスクにさらされています。

万が一にも盗難品に関する取り扱いを誤ると、懲役や罰金刑、営業停止や営業許可の取消などの刑罰が与えられ、その結果、のれんに傷がつき、営業にも多大な影響を被ることになります。

一、警察への協力義務

刀剣商・古物市場主は、警察による「品触れ」「差止め」に応じて盗品などの発見に協力し、警察職員による「立入り調査」に協力することが義務付けられています。

品触れ＝警察本部長等は、盗品などの発見のために必要と認める時はこれに該当する古物の届出を求めることが出来ます。これを「品触れ」と言い、通知された書面の内容を「品触書」と言います。

品触書を受け取った時は、その品触書に受け取った日付を記載し、その日から六カ月間保存しなければなりません。

品触書に記載されている被害品が持ち込まれたり所持していることに気づいた場合は、直ちに警察に届けなければなりません。古物営業法第十九条(品触れ)「品触書保存等義務違反」懲役六月以下又は罰金三十万円以下/営業停止

「差止め(保管命令)」警察本部長等は、古物商・古物市場主に対し盗品等の疑いがある古物については、三十日以内の期間を定めて、その古物の保管を命じることが出来ます。

「差止め」と言います。差止めを受けた古物は販売することは出来ず、委託を受けた古物であった場合には持ち主に返すことが出来ます。

古物営業法第二十一条(差止め)「差止め物品保管義務違反」懲役六月以下又は罰金三十万円以下/営業停止

「立入り調査」警察職員は必要があるとき認められた時は、営業時間中に古物商の店舗、古物の保管場所、古物市場等に立ち入り、古物および帳簿などを検査し関係者に質問することが出来ます。また、警察本部長等は、必要があるとき認められた時は、古物商等から盗品等に関する報告を求めることが出来ます。

古物営業法第二十二条(立入り及び調査)「立入り等の拒否等」罰金十万円以下/営業停止

古物営業法では、盗品の流通を防止するための三大義務の一つとして、古物に不正品の疑いがあると思われる時は、直ちに警察官に申告することが義務付けられています。不正品の疑いがあると思われる時は、買取や販売を取りやめ、できるだけ早く通報します。

申告の方法＝不正品の疑いがあるものが持ち込まれた場合には、スタッフ同士であらかじめ合図などを決めておき、相手にわからないように電話などで通報するのが効果的です。

また、買取後に不正品の疑いを持った場合でも、所轄警察に申告を行い、その真偽を確認する必要があります。

古物営業法第十五条第三項(確認等及び申告)「不正品申告義務違反」営業停止

三、盗品等の返還義務

古物商が入手した古物が盗品又は遺失品だった場合、被害者等からの請求があった際には、法に定められた期間内は返還する義務があります。返還義務＝入手した古物が盗品又は遺失品だった場合、被害者等からの請求があった際には、左表の通りの返還義務があります。

Table with 3 columns: 古物の入手元, 無償・有償, 期間. Rows include general customer purchase, auction, and resale.

例事項)、古物営業法第二十条(盗品及び遺失物の回復)古物商に対しては、盗品や遺失物を取り扱わないように細心の注意を払う責任があるとして、一般の人より重い責任が負わされています。



無償で持ち主に返った武鑑透象嵌大小鐔

新作鐔が盗難被害

彫金作家で、(公財)日本美術刀剣保存協会・新作名刀展無鑑査の玉岡俊行さんが盗難被害に遭った。盗まれたのは、自身の作品10数点。4月14日、玉岡さんと家族が自宅を留守にした午前9時半から12時ごろまでのわずかな間だった。

玉岡俊行＝〒790-0901 愛媛県松山市新石手231 089-977-2449

- 被被害品
①武鑑透鐔 平成3年新作名刀展出品
②桐紋透鐔 平成4年新作名刀展出品
③武鑑透象嵌大小鐔 平成10～14年新作名刀展特賞 10点
④吉野竜田川透象嵌大小鐔 平成21年新作名刀展出品
⑤助真拵写(玉岡俊行作総金具)
⑥合口短刀拵(村郷田靖献作欄間透小柄)
⑦池田孝寿作縁頭 ほか



武鑑透象嵌大小鐔

盗難被害を報じた本紙第11号

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董 和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510 FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一十六ー二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 0494-113130 FAX 0494-113136

三峯美術店 刀剣古美術
大阪刀剣会 吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二ー七ー一
TEL 06-6631-1211 FAX 06-6644-1546

← 次ページに関連記事掲載

NEWS & TOPICS

盗難の鐔が7年越しに返還

平成25年4月15日、現代を代表する鐔作家・玉岡俊行氏の元から14点の作品が盗まれるという事件が発生した。被害に遭ったのは自身が製作した武鑑透象嵌大小鐔7組と九曜紋透鐔1点、木瓜形桔梗紋透鐔1点、木瓜形桐紋透鐔1点、四方猪の目象嵌大小鐔1組、ほかに所蔵していた拵2点、縁頭1点の計14点。発生当時は品触れとして通知され、『刀剣美術』第676号に告知され、本紙第11号にも掲載した(前ページ)。

今回、これらの作品の一部が発見され、玉岡氏の元に寄贈という形で返還された。

本年7月、東京都内のI刀剣店に玉岡俊行作の大小鐔6組を売却したい旨の問い合わせが入った。日本美術刀剣保存協会の受賞作ばかりだという。玉岡氏によれば「受

賞作の類は一切他人に譲っていない」とのこと。盗難品の疑いが濃厚なため、直ちに警視庁に連絡を入れた。

すると、「当時、確かに被害届は出ているが、作品の詳細までは確認できず、かつ7年が過ぎて時効となっていることから、事件としては取り扱えない。同じく無償返還権も2年で消失しているの、返還義務も起こり得ない。購入の是非は自己判断で」との返答であった。

購入に関して法的問題はないことが確認されたので、I刀剣店ではこれらを買取り、念のため玉岡氏に資料を送った。その結果は「確かに盗難被害に遭った私の作品である」とのこと。同店では道義的に元の持ち主に返還されるべきものであると判断し、寄贈という形で返還することとした。

今回返還された作品は、
①武鑑透象嵌大小鐔 平成10年作

- ②武鑑透象嵌大小鐔 平成11年作
- ③武鑑透象嵌大小鐔 平成12年作
- ④武鑑透象嵌大小鐔 平成13年作
- ⑤武鑑透象嵌大小鐔 平成15年作
- ⑥四方猪の目象嵌大小鐔 平成23年作

なお玉岡氏に確認したところ、いまだに発見されていない作品は、

- ①武鑑透象嵌大小鐔 平成14年作
- ②武鑑透象嵌大小鐔 平成17年作
- ③木瓜形桔梗紋透鐔
- ④木瓜形桐紋透鐔
- ⑤九曜紋透鐔(錆付け未完了)
- ⑥助真拵(玉岡俊行一作金具)
- ⑦短刀拵(玉岡俊行一作金具)
- ⑧縁頭 銘 応長常凶補之 池田孝寿

の計8点とのこと。今後、業者に買い取りの依頼などが来る可能性もあり、各組合員は注意の上、もし見かけた際は玉岡氏まで連絡されたい。



東美パドル交換大会の様子

市場は動き出した。東美は四月恒例の大会を中止し、再開が待ち望まれていたが、参加者がおよそ四〇〇名になる大会は密である。しかし六月十九日から「ステップ3」に移行し千人までのイベントが開催可能となり、計画は密を避けて実行へ向かう。その特別交換会として第一部七月二日にネット入札会、第二部七月十六日にパドル交換大会が開催された。

本紙第54号にて、新型コロナウイルス感染症に対応した東京美術倶楽部(以下「倶楽部」)の姿勢を案内した。夏になれば気温も湿度も上がるから自然に収束に向かうのでは、という一部の希望の観測は簡単に崩れ、半年がたった本稿執筆時、東京の一日の感染者数はおおむね一〇〇〜二五〇人と発表されている。そんな中、われわれが市場会場とする倶楽部の前回に続くその後の対策をお伝えする。

コロナ対策本部を設けた倶楽部の先に挙げた①三密を回避、②マスク着用、手指消毒・手洗い・うがい励行、③来場時の検温、参加者リスト提出、④食事・飲酒禁止をガイドラインとし、東京美術商協同組合(以下「東美」)は主催行事の再開を新たな施策で挑戦した。「挑戦」としたのは当然従来環境では、倶楽部の挙げる条件を満たさないため、新たな基準で運営を進めることにある。

一方、美術全般の私設交換会は六月から人数制限をして開催され、その後大会も開催可能となり、再開が待ち望まれていたが、参加者がおよそ四〇〇名になる大会は密である。しかし六月十九日から「ステップ3」に移行し千人までのイベントが開催可能となり、計画は密を避けて実行へ向かう。その特別交換会として第一部七月二日にネット入札会、第二部七月十六日にパドル交換大会が開催された。

まず通常開催日前日一日のみの飾り付けと下見期間を、四〜五日かけて参加者を分散した。前者はパソコンと紙入札、後者は座席を離れた会場や館内数か所にモニターで作品を写し、各自がパドルを挙げて発声は競り手のみとし、密と飛沫感染を防いでいる。

当然、戸惑いもあり、出品数減に伴い総額も通常には至らなかったが、高く売れるものもあり改善点もわかり、挑戦は良かったと言えるだろう。

対外催事では、お茶道具や陶磁器、絵画を数多く並べる七月の元正礼会が中止となり、十二月の歳末正礼会はネットと内覧を併用した陳列スペース貸しとなる「東美アートモー」へと変更予定である。東美特別展や東美アートフェアもその開催時期や運営方法が議論されている。七月の新方式の大会を基に、九月の交換大会をパドル方式で開催した。私設交換会の大会が続く中、参加者も戻りつつ、高額商品も出て今後への下地を固めた感じである。さらに十一月には下見期間や参加人員、出品数に制限を設けなが

東京美術倶楽部の新型コロナ感染対策

進化する「新しい日常」

ら、競り直前の品物確認や昼食可能な大会が予定され、挑戦と進化は続く。

東美の知恵を絞った進化に呼応するように、倶楽部では利用者の安心・安全に向けた環境整備を進めている。入り口のアルコール配備、事務所受付のビニールシートやサーモ装置、非接触体温計無償貸し出しは既にご存じと思う。

これに加え、殺菌・ウイルスの不活性化能力を保持した「紫外線発生装置」、TPAフィルター使用の電磁波「空気清浄器」の設置、共用スイッチ・ドアノブへ抗菌・抗ウイルスコーティング剤の定期的塗布、エレベーター、トイレへ「クレベリン」配置などがこの秋から実施されている。

日本は欧米に比べて感染率も抑えられているが、これらに心え、今後も各自の適切な行動が望まれている。(伊波賢一)

新組合員より

久津間俊平(あさひ刀剣)

この度組合に加入させて頂いた久津間俊平と申します。推薦人として加入を承認して下さった組合に深く感謝申し上げます。私の日本刀との出会いは約五年前、刀剣愛好家であった父が弊店を開業するに当たり、その手伝いをしたことがきっかけです。

それまで、日本刀との接点はなかったのですが、あつという間に日本刀と刀装具に惹き込まれました。歴史・地理・科学・国語・美術等々あらゆる切り口から湧き出てくる日本刀の魅力に、興味は尽きません。

その中、二年前の父の死去により私が代表を受け継ぎ、現在に至ります。

組合こよみ(令和2年9~10月)

- 9月4日 銀座長州屋において『刀剣界』第55号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・生野理事・土子氏
- 7日 笠間警察署・栗原主任巡査部長来所、査定刀剣を預かる。服部副理事長・清水専務理事立ち会い。ほかに送付刀剣の査定1件
- 14日 嶋田常務理事・網取常務理事が事務所において刀剣査定1件
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加47名、出来高5,500,000円
- 17日 東京美術倶楽部において第3回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・猿田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・持田理事・大西監事
- 17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第56号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・持田理事・土子氏
- 27日 銀座長州屋において『刀剣界』第56号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 28日 服部副理事長・清水専務理事が事務所において刀剣買取3件
- 30日 伊波副理事長・大平理事が事務所において刀剣査定1件、買取1件
- 10月5日 服部副理事長・清水専務理事が事務所において刀剣買取6件
- 6日 国立国会図書館より『刀剣界』納入の依頼あり、第1~55号を寄贈
- 7日 全美連編集事務局より『全美連ニュースレター』第6号の原稿依頼あり、深海理事長の原稿を送付
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加43名、出来高3,416,000円
- 17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第56号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・土子氏
- 27日 銀座長州屋において『刀剣界』第56号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・生野理事・持田理事・土子氏

深く広がってゆく。その一端を担えるようこれからも精進いたします。まだまだ駆け出しの若輩で、至らぬ点ばかりかと存じますが、先輩方のご指導ご鞭撻をどうぞよろしく願いたします。

■連絡先 〓330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町二四三-一 〓048-643-1821-0

「一言」刀剣店を立ち上げたばかりでの先代急逝により、思いもよらず突然背負った開業店舗。ご本人の不安と苦勞は計り知れなかつたことと思います。しかし、持ち前の根気強さで日に日に成長する若手の刀剣商です。全身押形取りの修練を積んで養った刀を見る目には揺るぎない自信がみなぎっています。(松本義行)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

日刀保の「現代刀職展」表彰式開かれる

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)は9月28日、2020年度「現代刀職展」表彰式を第一ホテル両国において開催した。

最初に事務局から経過報告があり、酒井会長による主催者挨拶の後、来臨された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」事務局長・山田宏参議院議員からは、同議連の活動にも触れながら、列席した刀剣者たちに熱い激励の言葉が寄せられた。

引き続き入賞者に対する賞状及び副賞の授与、審査員による講評が行われ、受賞者を代表して作刀の部・高松宮記念賞受賞の北川正忠刀匠が答辞を述べた。無鑑査と入賞作品は、刀剣博物館で10月18日まで公開展示された。(作刀の部入賞者氏名は本紙前号に掲載)



第一ホテル両国での表彰式会場風景



山田宏議員からは激励の言葉が寄せられた



酒井会長(右)を前に答辞を述べる最高賞の北川正忠刀匠

例年とは異なる審査受付日にご注意

■新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、日本美術刀剣保存協会の審査受付日が変更となっています。ご注意ください！ 今年の重要刀剣等審査受付は11月です。

審査月	審査区分	対象	審査受付
11月	保存特別保存	刀装 刀装具	2020年11月4日(水)~11月6日(金)
11月	第66回重要	刀剣 刀装 刀装具	11月16日(月)~11月18日(水)
12月	保存特別保存	刀剣	12月1日(火)~12月3日(木)
2月	保存特別保存	刀装 刀装具	2021年2月1日(月)~2月3日(水)
3月	保存特別保存	刀剣	3月1日(月)~3月3日(水)

刀剣博物館は3月2日から臨時休館していましたが、6月2日以後、開館しています。館内ではマスク着用が必須で、37.5度以上の方は入館できません。現在は「日本刀—オモテとウラの世界」が開催中で、包永太刀(名物児手柏包永)などが見られます。コロナ対策にご注意の上、入館しましょう。(大平岳子)

■刀剣博物館 〒130-0015 東京都墨田区横綱1-12-9 ☎03-6284-1000
<https://www.touken.or.jp/museum/>

日本刀—オモテとウラの世界

「表裏一体」—そのような言葉があるように、世の中の多くの事物には「オモテ」と「ウラ」に関する世界があります。

日本刀やそれに付随した刀装・刀装具の世界にもオモテとウラの関係性があり、太刀と刀で表裏が定められているように、様式の中でオモテとウラには掟とも言える規範が確立されています。

本展覧会ではオモテの世界のみならず、今まで見落としがちであったウラ側にも着目して、形状や地鉄・刃文など表裏の違いが顕著に表現されている作品を展示するとともに、作品製作における隠れた過程やウラの逸話、また日本刀史のウラの部分を紹介する企画となっています。今までとは異なる視点から、日本刀の奥深い世界をどうぞ鑑賞ください。

会期：10月24日(土)~12月24日(木) 月曜休館。ただし11月23日は開催



2020年度 現代刀職展(研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部)入賞者

賞	研磨の部		白鞘の部	刀装の部	柄前の部	白銀の部
	鑄造の部	平造の部				
木屋賞	松村 壮太郎					
竹屋賞	横山 智庸					
千葉賞	秋田 勇喜					
薫山賞	関山 和進					
寒山賞	三浦 弘貴					
会長賞	平井 隆守			久保謙太郎	伊藤 俊克	
	細村 正勝				飯山 隆司	
	諸富 剛					
優秀賞	神山 貴恵	平井 隆守	永洞 修	秋山 登	矢倉 聡一	三島 幹則
	多田 芳徳	松尾 清健	千葉 俊和		平山 直弥	宮本 恒之
	是澤 光昌	柏木 良			橋下 幸律	武田 典明
	各務 弦太	山下 千穂			出口 智之	

賞	研磨の部		白鞘の部	刀装の部	柄前の部	白銀の部
	鑄造の部	平造の部				
優秀賞	柏木 良	各務 弦太				
	川上陽一郎					
	長岡 靖昌					
努力賞	小宮 光敏	佐藤 秀明	千葉 正義		山田 真也	上野 宏樹
	相良 雄一	ヘンドリック・リンデラウフ	河合 広明		久保謙太郎	野口 裕弘
	玉置 城二	細越 敬喜			奥原勁士朗	中村 晋也
	菊池 真修				松田那由太	
	松尾 清健					
	福森克一郎					
	柿沼 進一					
沖島 大喜						

日本刀の
名品・名刀を販売
店主 小暮 昇一
〒529-1131 滋賀県愛知郡愛荘町香掛1-11
TEL 090-4391-6422
FAX 090-4391-6431
<http://www.goushuya-nihontou.com>

アオバ企画(株)
高橋 一
〒130-0012 墨田区大平四-1-19
TEL 03-3611-1111
FAX 03-3611-1111
aobak@pj3.sonet.ne.jp

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田 慶雄
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

日本刀・刀装具
販売・買取
美術刀剣松本
松本 富夫・松本 義行
TEL.04-7122-1122
千葉県野田市清水199-1 刀剣松本 検索

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株) 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

ブック・レビュー BOOK REVIEW

非力な室町將軍たちはなぜ生き残れたのか

『足利義輝・義昭―天下諸侯、御主に候―』

山田康弘著 ミネルヴァ書房 定価三二〇〇円十税

足利義昭と聞いて、どんなイメージを抱くだろうか。ヒーローの織田信長を倒すべく裏で暗躍し、やがて没落する暗愚でダメな將軍であろうか。われわれは戦国期

「どうしてそうなったのだろうか」と疑問を提示しつつ、わかりやすくそして面白く論を展開している。文献史料に裏打ちされた語り口は魅力的である。

しかし、この本によれば、そういう認識は全くの誤りである。將軍たちは決して無力ではないし、誰かの傀儡になっていたわけでもなかった。豊富な人脈と優れた調整能力に戦国大名も一目置き、頼りにしていたのである。もちろん、室町時代の將軍には莫大な領地もないし、一声かければ即座に動員できる精強な大軍勢を持っていたわけでもない。かなり弱い存在である。だが、そんな室町將軍が、群雄割拠の戦国期でも命脈を保ち、容易に滅びなかったのはどうしてなのか。実は難問である。

大般若長光の所持者であったという義輝やその父についての記述も面白いが、筆者は、足利義昭についての論説に特に強く惹かれる。信長の政争の末に敗れ、追放された最後の將軍足利義昭。追放の後の生涯はどうだったのか。実はとても大きく大胆な行動で、日本の歴史を大きく変えてしまっているのである。信長、西国の雄・毛利氏や上杉謙信ら、戦国の強者たちは、「弱者」足利義昭に翻弄されるのである。まさに「事実は小説よりも奇なり」。一筋縄には行かない最後の將軍の実像が浮き彫りとされ、本当に面白かった。

一読後、筆者が特に関心を強く持ったのは、義昭の直臣たちの去就である。彼らの多くは没落した主君の元を去ったが、最後の最後まで去らなかった家臣も少なくはなかった。彼らはなぜ(わがままでプライドばかり高く、しかも口うるさかったらしい)義昭の世話を焼いたのか。筆者にはその理由が薄らぼんやりとわかるような気がする。

山田氏は足利義輝・義昭の生涯を素材に、「それはなぜか」

も、おそらくわかっているはずである。彼がそれを書かないのは史料的な裏付けがないから、であろう。しかし筆者は思う、そこはあえて踏み込んだ方が、この本はもっと魅力的になったのではないかと、そしてそれは許されると。なぜなら、この本は論文ではないから。

山田氏も書きたかったのかもしれない。あるいは原稿では踏み込んで書いたけれど、編集者がストップしたか……。いや、書かないと決めたのは、やはり山田氏自身だろう、と筆者は思う。そう、山田君はそういう人なのだ。細い目をさらに細くして、こう言うに違いない、「僕は歴史家であって、作家ではありませんから」と。

本書は難解な史料を読まされる部分がほぼなく、専門外の人にも読みやすく書かれている(と思う)。ぜひお読みいただき、戦国期の日本への時間旅行を楽しんでほしい。

桑名総鎮守桑名神社(春日神社、三重県桑名市)には三重県指定文化財の村正が二口所蔵されている。各々には「春日大明神」「三崎大明神」との新号が彫られており、天文十二年(一五四三)に村正自身が奉納を目的として製作したものである。

山下諸侯、御主に候



足利義輝義昭 山田康弘著

減み以將軍家を救ひ、戦国末、二人の別名を取った。

川崎晶平

『テノウチ、ムネノウチ 一刀鍛冶として生きること』

会社を辞め、一念発起して宮入小左衛門行平に弟子入りするも、わずか3カ月で受けた破門宣告。再入門から9年の修業時代を経て独立。各コンクールで数多の賞を受賞しながら、常に刀剣界の将来を見据え常識破りのチャレンジを繰り返す現代の日本刀作家・川崎晶平。その作刀に懸ける情熱と、次世代の刀剣ファンへの想い。「刀剣界の異端児」が綴る初のエッセイ集。価格1,980円(本体1,800円十税)。双葉社刊。



テノウチ、ムネノウチ 川崎晶平

NEWS & TOPICS

刀剣ワールド財団がムック『明智光秀と三英傑』を出版

東建コーポレーション(名古屋市中)が運営する刀剣ワールド財団はこのほど、日本刀と東海地方ゆかりの武将たちの関わりを紹介する『明智光秀と三英傑―名将と名刀の邂逅』を出版した。新型コロ

ナウイルス禍で開館が延期されていた博物館「名古屋刀剣ワールド」(名古屋市中)の収蔵する名品が一足早く楽しめる。光秀の愛刀とされる「明智近景」や、茶人としても知られる武将・織田有楽斎が愛用した国宝の短刀「有楽来国光」が巻頭を飾る。信長・秀吉・家康の三英傑の生涯、時代背景や、権力の証しとして

NEWS & TOPICS

「宝刀村正写し」奉納プロジェクトが始動

長らく地刀不明であったが、令和の御大典事業の一環として研ぎ上げられて地刃が鮮明となった。研師の松村太郎さんがこれを手がけたことはテレビなどでも取り上げられ、話題となった。その後、同社では「宝刀村正写し」奉納プロジェクトがクラウドファンディングで立ち上がることを果たした。

所蔵する村正は三重県指定文化財であることから、管理と展示には大幅な制限がかかる。そこで忠実な「写し」を製作し、神社の施設内での常設展示を行うことで、村正にまつわる歴史や伝承を発信し、文化財の保護につなげようというもの。上島宗泰刀匠による村正再現に合わせて、各種行事も進められている。

支援の募集は二月七日に開始され、計画通り三月二十二日に終了したが、目標金額の四百万円に対して、サポーター一四四人から四・五倍の一千八百万円余りが寄せられているという。



村正写しの製作に当たる上島宗泰刀匠

折々の古都

季節の楽しみ―酒粕のこと 石井理子

これまで幾度か、この紙面にてお目にかかってきましたが、今号から連載ということになりました。日々のこと、季節のこと、ちょっとした著休めのようなお話を書いていこうと思います。どうぞよろしくお願いします。

先日、直売所に買い物に行った。すると、酒粕が置かれていた。

「ああ、ぼちぼち季節やね」と、早速ひとつ買って来た。地元、葛城市の酒蔵「梅乃宿」のものだ。

この酒蔵では、十月の終わりに「蔵開き」が開催される。ぶらりと行くと、酒好きの友人の誰かに出会う。広い敷地内に併設された出店で肴を買って皆で分け合い、ちょっとした宴会になる。

なのに、今年は新型コロナウイルスで中止だ。ああ、悔しい!! つまらない!!

布団から出るのが、ただただ辛くなる一方だ。

それでも、昨夜の残り物の粕汁を温めて食べると、心なしか味わいが深まっているのも一興だと思

う。一口飲むと「五臓六腑に染み渡って、このことだ」と、朝からどどん著が進むのだ。

季節は動いている。突き刺すような日差しがいつの間にか柔らかくなり、直売所の野菜たちの品揃えも変わった。

今年もあと二か月足らず。残り二枚になったカレンダーを眺みながら、師走に向けて助走が始まっている。



「梅の宿」の酒粕と日月椀

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株) 田中勝憲 代表 古城南堂古美術店

日本刀 販売 買取 委託 e-sword (株) e-sword 平子誠之

刀 剣 界

シヨウヤク 健脚商売 30

最終回

目黒区 編

今日の俺の行き先は……とその前にお知らせ。今回は最終回。いきなりで恐縮だが、俺もサイクリングばかりしていたらこのコロナ禍、だんだんと自分の首が縮まってきた。このままじゃ健脚商売どころか、文字通りの自転車操業になりかねん。

行き先は自宅からすぐ近くの目黒区洗足。先輩の伊藤温氏を訪ねる。この道四十数年のベテランだが、六年間の勤め人経験があるというの驚き。実は父親同士が友人でもあり、氏には学生時代から見守っていた。

伊藤先輩、俺の行きつけの目黒のマニアックな自転車店で、かなり凝った一台を三年前に注文した。店主が頭を抱えたその注文内容とは、部品類から中国製品を取り除くこと。以前、理事長が「風向計」にも記したが、良品至上主義が中国製品のコストに圧迫されている。それは半導体や家電に限ったことではなく自転車も。大宮編で語った火縄銃から転身し、スイスチャンピオンのメヒラー選手を擁した出来自転車も今



サレジオ教会にて伊藤先輩(右)と

はい。先輩の真似をして俺も同様に、すべてメイド・イン・ジャパンで実用車を作ってくれ、と注文した。その結果、納期はなんと九月後。今日はその二台で初めてのサイクリングだ。

サレジオ教会まで氏の先導で行く。氏の愛車は、前キャリアにフランスパンでも置けばまるでピストロの買い出しみたいにお洒落。教会付属幼稚園の園児の母親からも、乗り手でなく車面が視線を浴びる。

教会の前で語ってくれた氏の人生観。どうしても一文字のような古名刀が好きで、そこに回帰点を置いてしまつと語る。しくじった仕入れも考え込まずさっさと売す、これが氏のモットー。そして不景気にあえく俺に、氏が毎度送ってくれるエールは「今まで何とかやってきたじゃん、これから何とかなるって」だ。

イギリスの「ニイク・イット・イージー」やビートルズの「レット・イット・ビー」と同じだな。かっこいいよ、先輩。そう言えば氏が新聞に出した買取企画会の広告の片隅、四人の鑑定士の顔写真を2×2で並べたデザインはビートルズのあのアルバムみたい！

レース車両のスピードもいいが、こういう実用車のサイクリングは風景の中の再発見がたぐさある。俺は先輩の言葉に背を押され、次のステージを走る。

三十回もの連載に際し取材を受けてくれた皆さん汗をかいた俺を職場や家に招き入れてくれた皆さんを、感謝とともに思い出す。

そして『刀剣界』編集委員会、よくこのお粗末なコンテンツに目をつぶり続けてくれました!!「新聞が届くと君のコラムを一番先に読む」と言ってくれた少数の組合員さん、ありがとうございます。

と言っても、まだ自転車生活をやめるわけではない。次に不思議な世界の扉を開けたとき、自転車にまたがった「俺」が現れるのはあなたの前かもしれない(タモリ調)。(編取譲)

資料発掘 明治の一愛刀家の独白(後編)

松平 正直



刀剣を愛することは日本の古物保存の趣意にも適つて、また審美上から論じても余程の意味がある。実に日本刀というものはその焼刃の匂いを見ても精神を爽快ならしむる所がある。日本の美術絵画もたくさんありますが、千年以上経つたもので今日現存しておいて実用をなすものは刀剣の外ないと言つても過言でない。伯耆安綱などは千三百年にもなる。行平のような古備前物でも三百年以上になりますからな。

私は熊本に在任中いろいろ刀も見ましたが、熊本には正宗は一本もありません。いや、熊本ばかりではありません。どうも正宗というものは真物は多くないようである。それで普通、刀剣を愛する人と言へば必ず正宗、貞宗を賞揚するようであるが、私はどうも正宗には信を置けない。志津一派や郷則重などになると、ややもすれば正宗に化けやすいからなかなか油断はならぬ。

私の考えではなるほど正宗という人は有った人に違ひなからうが、どうもそれほど実際の鍛錬はない人と思う。

つまり一文字から長船となつて

NEWS & TOPICS

蘇れ! 77振の御神刀・奉納刀

自然災害による文化財の被害が相次いでいる中、熊本県人吉市の国宝・青井阿蘇神社の所蔵する刀剣七十七振がクラウドファンディングでよみがえろうとしている。

同社は去る七月四日の豪雨で浸水し、保管していた刀剣のほか、装束や神輿、古文書などの貴重な伝世品も水没した。

被災から二日後、収納していたタンスを壊して刀剣を取り出すと、大半が既にさび始めていたという。これらは御神刀の高井越前守源信吉のほか、豊後国行平・長曾祢興正など当地相良藩の藩士らからの奉納刀である。

神社の復旧と再建を進めなければならず、費用も人手も足りない

中で、関係者の一人がクラウドファンディングを活用した支援を提案。すると、立ち上げた八月十三日の開始わずか一時間半後、当初目標額の五百万円を突破した。募集は九月十五日に終了し、集計によれば三二一人から三五〇万円余りが寄せられたという。これによって、全ての刀剣を元の状態に修復する作業は、地元の方を中心にして既に始まっている。



被災から2日後に取り出された77振の刀剣(提供/青井阿蘇神社)

NEWS & TOPICS 「継嗣の剣」が奉納される

十月十八日、東京都台東区浅草の浅草神社において、新たな社宝となる「継嗣の剣」のお披露目と奉納の儀が行われた。

浅草神社では令和元年、宮司に就任した土師幸子宮司の「後世に残る宝物を神社に奉納したい」との発案を受け、若手職方らで構成する日本刀文化啓発団体「鉄芸」にその製作を依頼していた。

行われ、精魂込めて製作された剣は土師宮司の手により無事、本殿に納められた。

今回のプロジェクトに携わった鉄芸のメンバーは次の通り。

鍛錬/上高宗泰
火造り/山下義高
焼入れ/石田國壽
荒砥/改正砥/松村壮太郎
名倉砥/内曇砥/表・小川和比古
裏・藤代龍哉
刃艶/刃取り/表・水田吉政、裏・森井鐵太郎
白鞘/森井敦央
銅/中田晃司
監修/飯田慶雄

その証拠には、徳川幕府のころ將軍より諸侯に賜る刀剣の中に正宗在銘のものは一本もないと言つて良いくらいである。世に所謂正宗と称して動いておるものは多く折紙で動いておるのであります。その折紙も寛永より元禄、享保ころまでの本阿弥の折紙ならよろしいが、その外の折紙ではあまり感心しませぬ。また、營に正宗十哲と称しましても広正ぐらいまでは鑑識も届きますが、秋広以上となつてはなかなか危ういものがあります。

それでは、どうか今日の刀匠家をして永くその業を保たしめてその跡を絶たしめぬようにするのは、我々の道楽仕事でなく、国民の義務と言つてもよろしかろうと思つておるであります。しかし、ただ刀匠家を存置しようと言つても、業にならなければ生活ができませんから、日本の朝野ともに上

大臣以上では伊藤侯も好きで、よく今村(長質)などに鑑てくれと言つてくるので。松方伯や岩崎男などもたくさん持つておるようですが、まあ眼の鑑く人は田中宮相です。玄人では今村、別役、大沼、益満などという人です。

私は平十郎の養子の本阿弥成善に研ぎや手入れをさせております。私の愛玩しておるものというても別にありませんが、まずただ今所有しておる刀剣の中で主なるものは、古備前友成、同正恒、備前一文字宗吉、同信房、備中古青江康次、来国行、相州行光、短刀にては相州新藤五国光、築州左備前倫光、同兼光、行光ぐらゐのものです。

流の人は外国への贈り物には年月日在銘の刀を太刀拵にして贈つたならば、非常に外国人も喜びましようと思ひます。

昔は武士の戦功ある者にその君から賜るものは感状とか器物とかいろいろのものを与えたものであるが、与ふるに名刀をもつてすれば受くる者は身命城郭にも換えて珍重したぐらゐのものであります。どうか文明の今日の世でもこういう風に外国との交際も進んできた上は、外国へ贈り物は二百円も三百円も掛けて太刀拵にして贈つたなら誠に彼我の幸いで、古物保存上結構のことであろうと思われぬのです。

新型コロナウイルス感染症防止のために延期となり、規模を縮小せざるを得なかった三社祭が催されるこの日の朝、御神霊移御の前に奉納の儀式が



土師宮司(中央)と製作に携わった鉄芸の皆さん

旅のつれづれに 8

戦国武将たちの面影を伝える街

山形県

コロナ禍によってしばらくお休みになっていた某社主催の鑑定・買取ツアーも再開され、八月第一週の山形県酒田市・山形市・米沢市を巡る旅に小生も参加することになりました。最初は酒田市です。前日早めに到着し、市内観光をしました。

まずは本間美術館です。本間家が大名家から拝領した品があるとのことでしたが、この時は扇子や文書ばかりが出品されていたので、小生にはわかりませんでした。

続いて、隣接する鶴舞園という庭園と、清遠閣と称される二階建ての銅板と瓦葺きのお屋敷です。文化十年(一八一三)に本間家四代目当主光直が築造したとされています。藩主酒井侯が領内巡視をする際の休憩所、酒田の迎賓館としても使用されたそうですが、確かにここは素晴らしかったです。

大名庭園と比べると敷地は狭いのですが、庭に大きく高低差を取り、清遠閣との調和、一階の上座敷二階の謁見の間からの眺めも良いのです。大正十四年(一九二五)には後の昭和天皇のお宿にもなつたそうです。そして次なるは本間家旧本邸で



往時の繁栄が偲ばれる本間家旧本邸

また、二女駒姫の話は悲劇であり、後の義光の行動にも直結します。文禄四年(一五九五)、駒姫は東国一の美女として有名だったとあって、それを伝え聞いた豊臣秀次から所望の意が伝えられた。義光は気が進まなかったが、権力者から度々求められたので断り切れず、駒姫十五の年に

す。明和五年(一七六八)に三代目当主光丘が幕府の巡検使一行を迎えるための本陣宿として、藩主酒井家に献上した屋敷です。武家屋敷と商家造りが一体となった珍しい構造で、武家屋敷は二千石の格式を備えていましたが、巡検使一行が江戸に戻ると酒井家から下賜され、商家造りの方で昭和二十年の春まで住んでいたとされています。

酒田市で最後に訪れたのは山居倉庫。市街の南部、新井田川の河口近くにある庄内米の貯蔵庫で、その歴史は藩政時代にさかのぼります。現在の建物は明治二十六年に建てられたもので、大きな土蔵造り十二棟が並び、背後を囲むケヤキの大木は日よけ、風よけの役目を果たし、自然を利用した低湿管理が行われます。ドラマ「おしん」の舞台としても有名です。庄内藩でも政治は鶴岡、経済は酒田という訳がよくわかりました。酒田は日本一の大地主本間家の拠点でした。

翌日は山形市へ。最上義光記念館は午前九時からやっているのので、早速訪れてみる。義光の兜などいろいろ見るものもあったが、何より最上義光という武将に関心が向く。数多くの合戦、折衝、そして裏切りなどありとあらゆることをして周辺の豪族たちを、ある者は滅ぼし、ある者は取り込むという、この時代には当然のことと言え、そのすべはやはり特筆に値します。

京都に送り出しました。しかし、秀吉は秀頼が生まれるまで、それまでは跡継ぎに据えていた甥の秀次が邪魔になり、関白職を取り上げて高野山に追放、そのあけくは切腹を命じました。正室や側室、子供たちも斬首に処されました。その中に駒姫も入っていたのです。

また、共に京に来ていた義光の正室大崎夫人は、駒姫処刑のわずか十四日後に亡くなりました。駒姫を追って自害したのではないかと囁かれています。豊臣家に恨みを持つ義光は、関ヶ原の戦の折は当然のことながら徳川

家には味方し、上杉景勝配下の直江山城守兼続に攻め込まれながらもこれを撃退、上杉方が関東に攻め入るのを牽制しました。関ヶ原の後、義光は二十四万石から五十七万石に増えられました。出羽山形藩最上家の誕生です。しかし藩主としての最上家は長くは続かず、義光の孫の義俊の代、元和八年(一六二二)に改易となります。その後、出羽山形藩は大名がめまぐるしく入れ替わりますが、山形に住む人々にとって殿様と言えは、今も「最上の殿様」ということになるようです。三日目は米沢市に移動しました。

私が出会った珍品・逸品

野田一郎

竹のだまし絵のアイデアとテクニク

どなたも「竹の枝を母念に張り付けましたね」と言います。黒漆の石目地を背景に小指大の竹の半割を五本張り付け、節の凹凸ゴマの斑は見る者を圧倒する。一部の破損部分を仔細に見ると、漆の粉を五ミリほど盛り上げ、凹凸はさらに高く彫刻されている。仕上げは茶漆を基調に黒いゴマ斑、節の影が描かれた超絶技巧に、やがて「竹のだまし絵」であることに気づくのである。



柴田是真や橋本市蔵が、鞘や印籠に竹を半割に二ミリほど盛り上げてゴマ斑を表した作風とは明らかに異なる、超高盛り細密彫刻したアイ

この拵は黒茶を基調に夕刻を表しながら、薄光の中に現れる竹林の鞘のだまし絵を中心に、柄前の絞は黒く、革の柄巻、下緒革には桜の散る様が染められている。それは拵全体で嵐山を表現し、在原業平が見え隠れする。風雅に作られた拵も片手打ち目釘が指裏から設えられ、武用も十分に考慮されている。おそろく主人公の業

山形市の南五十キロほどの所ですが、米沢に入ると、緑深い山の中から急に市街地になる印象です。直江兼続が最上に攻め込んだ時は、庄内地方も秀吉により上杉家の領地になっていて、そこらでも戦が始まっていた。庄内地方を酒井家が治め、酒田で本間家が繁栄するのは江戸時代です。

最上家と上杉家、そして酒井家が同じ山形県にいるのは不思議な話だ。これらの合戦を書いたのは松永弘高『奥羽関ヶ原』ですが、その本の話はいずれまた。(持田具宏)

平は鐔に表現されていたに違いない。小道具の視覚画題に満足し、在銘の是非に一喜一憂し、その一部分を抜き取り拵を破壊する。十分に考えられた拵の本来の姿を再生するには、膨大な時間と費用と知識を要する。諸々の破壊により身近には、精確な拵はほとんど残存していない。せつかくの「竹のだまし絵」の主人公である「在原業平」は今どこにいるのだろうか。

小尻／臙銀地、朱雀色絵、摺割し縁頭／臙銀地、冠扇に桜各色絵、銘応令兄可親堂求古(花押) 目貫／赤銅地、馬金色絵 小柄／鉄石目地く雌雄雉、赤銅金色絵、銘稚松軒友茂(花押) 柄前に描かれた「冠扇」に散る桜の吹雪、桜の樹に繋がれた目貫の「馬」竹林の中に現れる「雉の雌雄」、嵐山を表す名勝の「松」、これら全体で表現された「在原業平」の留守模様と思われる。

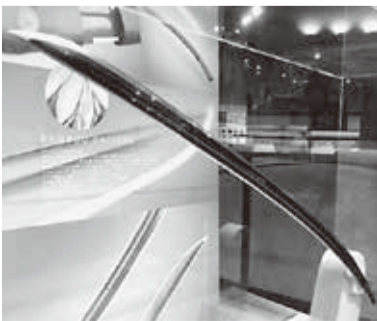
NEWS & TOPICS

「奥出雲たたらブランド」に注目！

人気漫画「鬼滅の刃」の主人公、竈門炭治郎が持つ黒い刀「日輪刀」に似ていると話題の日本刀が「奥出雲たたら」と刀剣館で展示され話題を呼んでいる。十一月二十三日まで開かれている企画展「奥出雲たたら展(二〇二〇)」で会場中央に展示されているのが「月下の笹」と名付けられた黒い刀。富山県の刀匠、高田欣和さんが製作した。刀身は九三センチ。反りは浅く、特殊加工技術で黒く染められている。黒染めには腐食や錆から金属を守る作用もあるという。

今回の企画展では月下の笹のほか、玉鋼を使用した小刀やメガネブレード、製錬する際の鉄滓で作ったジュエリーなども展示。また、奥出雲では原料となる砂鉄を取るために切り崩された山を棚田にして米やそばを栽培していることから、たたら製鉄がもたらす循環型農業も紹介している。

■奥出雲たたら刀剣館 〒699-1802 鳥根県仁多郡奥出雲町横田二三八〇-1 ☎0854-511-1770 <https://okuzumino.org/jp/guide/detail/208/>



黒い刀「月下の笹」が話題を呼んでいる

宮島宏先輩を偲んで

宮下武

八月二十四日、宮島宏氏永眠。お通夜とお葬式はコロナ禍のため、一般の方の会葬はご遠慮いただき、町屋斎場にてご親族の皆さま方だけでお見送りをいたしました。

宮島宏さんとは、私が故宮島市郎師匠の元へ弟子入りした時からの縁で、形の上では兄弟弟子になりました。私の入門の直前に独立されたため、一緒に机を並べたことはありませんでしたが、常に一番の目標でした。宮島さんを語る上で凄人だなと思ったことがいくつかあります。

白銀師の仕事と言えは、錫製作のほかに金具などの下地作りが主な仕事でしたが、宮島さんは彫金まで手掛け、日刀主催のコンクール錫の部に二重上貝家紋入り金着せ錫を出品し、特賞を受賞する快挙を成し遂げました。当時、錫の部で特賞は皆無でした。その後、彫金に磨きをかけ、春日



刀文協会長・柳井俊二氏(右)と談笑する在りし日の宮島宏さん

大社若宮御料古神宝毛抜形太刀復元事業にて、金具製作と彫金に関わりました。白銀彫金師として一番脂が乗っており、まだまだやりたいことがあったと思います。宮島さんは刀文協の活動や刀職者育成にも力を入れ、主催する研修会講師、コンクールの審査員などを歴任しています。昨年の暮れの刀文協創立十周年記念式典では、専務理事として来賓の方々をご案内していた元氣な姿をまざまざと思い起こします。お酒が好きだった宮島さんですから、今ごろは先に逝った先輩方と楽しくやられているかもしれません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(白銀師・公益財団法人日本刀文化振興協会常任理事)

催事情報

関鍛冶伝承館

〒501-3857 岐阜県関市南春日町9-1 ☎0575-23-3825
https://www.city.seki.lg.jp/kanko/0000001558.html

市制70周年記念・合併15周年記念企画 二次元VS日本刀展

本企画展の目的は、日本刀文化および関鍛冶の魅力
を多くの若者へ発信することです。展示作品の中には、
関伝日本刀鍛錬技術保存会の尾川兼國刀匠が製作した「
るろうに剣心-明治剣客浪漫譚-の逆刃刀」や、
二十五・二十六代藤原兼房刀匠が人気イラストレーターの
デザインを再現した日本刀、関市刀剣研磨外装技術
保存会の鞘師森隆浩氏が製作に携わった「バケモノの
子 熊徹の刀・拵」があります。併せて、関鍛冶が製作
に携わった日本刀も含め、計14振を展示します。また、
人気クリエイターたちが描き起こした「未来の日本刀
をテーマにしたイラスト」も同時展示します。



会期：12月4日(金)～令和3年2月1日(月)

備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/index.html

日本刀ができるまで一匠たちの共演一

日本刀は、平安時代から現代まで続く約1,200年にわたる長い歴史の中で、
全国各地で製作されてきました。中でも長船地域は、数多くの優れた日本刀
が生み出された名刀の産地として知られます。この産地を支え続けたのが、
日本刀製作を行う職人(刀職)たちです。

日本刀製作を行う職人という、「刀鍛冶」が全てを作り上げると想像し
がちですが、「研師」や「白銀師」「金工師」「鞘師」「塗師」など多くの職人
の手で製作されています。作業内容も、刀身研磨をはじめ、鍔の作成、鐔・
目貫など刀装金具の製作、鞘・拵下地の製作、漆塗り、柄製作など多岐にわ
たりますが、これらの作業は、職人が所有している工房で行っていることか
ら、真近にみる機会はなかなかありません。

今回の展示は、玉鋼から作られる刀身と、鐔や鞘などの刀装具を組み合わ
せることによって出来上がる外装の製作工程にスポットを当て、職人がどの
工程を担当し、どんな作業をしているのかを知っていただきます。併せて、
備前おさふね刀剣の里の活動に協力していただいている職人の紹介ととも
に、職人を目指したきっかけをはじめ、将来の夢や作品作りへの熱意など、
普段語ることのない職人の生の声にも注目してみてください。

会期：10月23日(金)～令和3年3月31日(水)

靖国神社遊就館

〒102-8246 東京都千代田区九段北3-1-1 ☎03-3261-8326 (代表)
https://www.yasukuni.or.jp/yusyukan/news_detail.html?id=269

特別展「靖国神社と刀剣一所蔵刀にみる大和魂一」

今日の遊就館では、戦死者にまつわる遺書や遺品な
どを主たる展示品として御祭神のご遺徳を顕彰して
おりますが、明治15年開館以来の草創期から先の大戦期
までは軍事博物館としての性格が色濃く、そのほとん
どの展示品が兵器や武具甲冑・刀剣類でありました。



一方この時期、明治から昭和初期にかけての造刀は、
時代の移り変わりとともに、徐々に変化を余儀なくさ
れたと言われております。こうした状況を改善しようと、
昭和7年には財団法人日本刀鍛錬会が結成され、翌年
には日本刀の文化保存に縁の深い靖国神社境内に鍛錬場
が建設されました。

現在、茶室「行雲亭」となっているこの鍛錬場では、鑪製鉄の復興ととも
に、日本古来の鍛錬法により実戦にも耐え得る日本刀が打ち出されたのです。
「靖国刀」として製作された8,100振余の日本刀は、御下賜刀や靖国神社の宝
剣あるいは将校の軍刀として頒布されました。

古来より美しさと神秘性を秘めた日本刀は、神の依り代として、また神宝
として神社に納められてきました。当神社におきましても創建以来、数多く
の宝剣や軍刀、さらにはいわゆる名刀等を所蔵してまいりました。この度の
特別展では、通常は展示空間の制約からご覧いただけないこうした刀剣類を
広く公開します。

国内外の多くの人々に日本文化の粋を集めた造形に触れていただくことに
も、所蔵刀に込められた大和魂と伝統文化への関心がさらに高まることを期
待して、本特別展を開催します。

会期：【前期】令和2年3月14日(土)～令和3年12月23日(火・祝)

【後期】令和3年3月16日(土)～令和3年12月15日(日)

致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199
https://www.chido.jp/

幕末の刀工 藤原清人

藤原清人(文政10年：1827～明治34年：1901)は湯
温海生まれ、本名・斎藤小市郎。嘉永5年(1852)江戸
に出て、「四谷正宗」と称された名工・源清麿に師事した。
後に幕末期の庄内藩お抱えの刀工となり、朝廷に献刀
し、豊前守に任せられ活躍した。本展は幕末から明治
初期の作刀をはじめ、師匠・清麿や子・清丸の作刀を
含め約30振を出品予定。また、幕末期に隆盛を極めた
庄内金工による打刀拵なども賛助出品する。



会期：10月31日(土)～11月29日(日)

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。

桑名市博物館

〒511-0039 三重県桑名市京町37-1 ☎0594-21-3171
https://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/24,0,235,414,html

特別企画展「三重刀剣紀行一甦る村正の煌めき」

本年が文化財保護法制定70周年に当たることを記念
して、地元・桑名を中心に三重県ゆかりの刀工を紹介
する展覧会を開催します。

文化財保護の観点から刀剣を取り上げるのは2つの理
由があります。1つは、刀剣は放置したままでは錆びて
しまうため、誰かが手入れをし続けてきてくれたから
こそ、現在の私たちは数百年前の「鉄の美」を堪能する
ことができるという点です。2つ目は、本質的には武器
にもかかわらず、信仰の対象あるいは美術工芸品とし
て、本来の用途にとどまることなくさまざまな形で受容
されている点です。ここに至るには先学の多大な努力と、
継承への熱意があったからにほかなりません。

このように、現在に伝わる文化財を、未来に引き継いでいこうとする意識
を育む上でも刀剣は最適の文化財の1つであり、本展を通じて地域への愛着
を育て、文化財保存の重要性を理解していただくことを目的としています。
東西交流の結節点であった三重県には、著名な「村正」をはじめとして多く
の魅力的な刀工が活躍しています。その刀工たちが鍛えた、長い年月を経て
も変わらぬその刀の煌めき「不滅の刃」を心ゆくまで鑑賞ください。

会期：10月17日(土)～11月29日(日)



佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
https://www.sanobi.or.jp/

はじまりのはなし一佐野美術館の名刀コレクションを中心に一

合金鉄(フェロアロイ)の生産を手掛ける実業家であ
った佐野隆一(1889-1977)が美術品のコレクション
を始めたきっかけは、徳川将軍家に伝来していた刀剣
を入手したことでした。鉄から作られた刀剣に興味を
持ち、日本刀の全体像を理解しようと収集を始めまし
た。次第にその興味は他のジャンルの美術品にも及び、
三島ゆかりの白隠意鶴をはじめとする書画、中国・朝
鮮の陶磁器や金銅仏など東洋美術を中心とする佐野美
術館コレクションの礎が築かれました。

本展では当館の刀剣コレクションを中心に、皆さま
にぜひご覧いただきたい約60件をご紹介します。
会期：10月31日(土)～12月20日(日)



小山市立博物館

〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 ☎0285-45-5331
https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutu/

第73回企画展「秀郷伝説異聞」

中世小山氏の祖である藤原秀郷は、平安時代中期の
武将で、名だたる東国武士をはじめ、多くの氏族の祖
となりました。しかし、秀郷の実像は不明な点が多く、
伝説上の英雄である「依藤太」としての活躍が広く知
れ渡っているようです。その伝説の舞台を訪ね、秀郷
の実像とその子孫で関東の代表的な武士団である名
族・小山氏の展開、そして大石内蔵助が出自した近江大石氏との関係につい
て紹介し、郷土の歴史への理解を深めたいと考えます。

会期：10月24日(土)～11月29日(日)

講演会「秀郷から小山氏へ」國學院大學栃木短期大学教授 菱沼一憲

11月1日(日) 13時30分～15時00分

講演「依藤太の大ムカデ退治」講演師 神田真紅

11月14日(土) 13時30分～14時30分

講演会「藤原秀郷と平将門の乱」栃木県立博物館主任研究員 山本享史

11月22日(日) 13時30分～15時00分

申し込みは電話で。先着順となります。



ミュージアム都留

〒402-0053 山梨県都留市上谷一丁目5-1 ☎0554-45-8008
https://www.city.tsuru.yamanashi.jp/soshiki/shougaiakushuu/museum_tsuru/1340.html

崇高なる造形一日本刀 名刀と名作から識る武士の美学一

全国から刀剣・刀装具の名品を集めた本展。刀剣は
名物武蔵正宗、村正(有栖川宮熾仁親王所持)、長曾祢
虎徹(号蓬萊山虎徹)など、平安時代末期から幕末ま
での代表的刀剣を展示して日本刀の魅力に迫ります。

刀装具は重要文化財「林又七 武鑑透二重唐草図鐔」
を再展示するほか、鉄鐔の覇者と尊称される金家、信
家の名品を各12点展示し、すべての刀剣と拵を旧幕時
代に使われていた刀掛に展示するなど、史上初の試み
となります。

金家、信家の名品が各12点一堂に集まるのは史上初です。

〈主な展示品〉

刀 剣 ●古備前正恒(重美)、長船兼光(重美)、来国俊、五郎入道正宗(重
美/武蔵正宗)、相州秋廣(重美)、志津三郎兼氏、長谷部国重、千
子村正(有栖川熾仁親王所用)、孫六兼元、堀川国広(重美)、南紀
重国(重美)、肥前忠吉、長曾祢虎徹(重美)、源清麿、一徳齋助則、
行光・大進房(上杉家伝来)

刀装具 ●金家・信家24点(重美4点)、後藤祐乘12点、林又七(重要文化財)、
横谷宗珉、土屋安親、岩本昆寛、石黒政美、一宮長常、大月光興、
荒木東明、松尾月山、海野勝珉

会期：11月7日(土)～令和3年1月24日(日)

